

令和5年 8月 9日

東松島市議会議長 小野 恵章 様

(会派名) 清 新 会

代表者氏名 阿 部 勝 徳

会 派 活 動 実 施 報 告 書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目(該当を○で囲む)

調査研究費、 研修費、 広報費、 広聴費、 要望・陳情活動費、 会議費

2 活動名称： 視察研修

3 実施期日： 令和5年7月10日(月)～令和5年7月13日(木)

4 活動成果： 釧路市の生活保護者支援の取り組みについて研修し、様々な立場の生活保護受給者に対して経済的な自立(就労)だけでなく、日常生活上の課題解決や社会とのつながりを回復するための支援の重要性を再認識した。更別村は様々な分野において、地域課題をデジタル化の活用により解決し、より豊かな暮らしを実現しようとしており友好姉妹都市の身近な先進事例として大いに参考とすべきと感じた。花のまちがコンセプト恵庭市の取り組みは、規模は違うものの本市の花の香るまちづくり事業や令和の果樹の花里づくり構想の将来像として参考にしたい。

5 添付書類： 別紙視察研修報告書



清新会 視察・研修報告書

令和5年8月9日

研修先:北海道釧路市、更別村、恵庭市

期 間:令和5年7月10日(月)～令和5年7月13日(木)

7月11日 釧路市

【研修事項】釧路市「生活保護受給者支援プログラム」について

《市の概要》

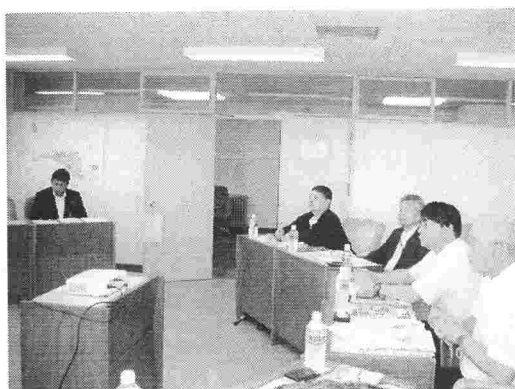
平成17年10月に釧路市、阿寒町、音別町が合併して新生「釧路市」に。人口は15万9千人、世帯数は9万2900世帯、面積は1363平方km。北海道の東部に位置し、南は太平洋に面し北は阿寒岳に至り、阿寒摩周国立公園と釧路湿原国立公園を擁する自然豊かな地域。経済面では農業、林業、水産業の一次産業とそれに関連する食品加工業、製紙、石炭鉱業及び観光業が柱である。近年、製紙及び石炭鉱業の衰退により人口減少が加速し、市民の暮らしに様々な影響が生じている。

●釧路市福祉部社会援護課の担当職員よりスライドを基に研修事項について各種説明があり聴取し、その後に質疑を行った。

説明によれば、釧路市の生活保護における保護率は（令和4年12月時点）、全国保護率1.62%で、北海道が大阪に次いで2番目の2.92%であり、釧路市は4.73%と全国平均に比べ、また北海道内でも高い保護率で、経済活動の不振によるところが大きいとしており、市民20人に1人が被保護者との現状である。この状況下において被保護者の自尊感情を回復し、地域社会の一員として活躍してもらわなければ、まちづくりが成り立たないとしている。生活保護受給者に対して経済的な自立を目的とした就労支援(就労自立)だけでなく、日常生活上の課題解消(日常生活自立)や地域社会の一員として生活していくための支援(社会生活自立)の3つの自立が必要であるとし、個々人の状況に応じたプログラムを実施し自立の促進を図っている。

●自立支援プログラムはA「就労支援プログラム」 B「就業体験的ボランティアプログラム」 C「就業体験プログラム」 D「日常生活意欲向上支援プログラム」 E「その他のプログラム」の5つに分けられる。自立支援プログラムには民間事業所、医療施設、介護施設、NPO法人など数多くの団体が関わっており、更に受給者の希望と事業所との調整・連絡などの橋渡しの役割を「自立生活支援員」が担っている。

●自立支援プログラムの推進により令和4年度実績で、765名、延べ6376名の受給者がプログラム参加し、就労や自立の促進に繋がっており、同様に1人あたりの保護費の削減にもプログラムの効果が現れているとしている。



【釧路発、自立支援プログラムについて聴取】



【スライドによる担当者の説明】

[考 察]

様々な立場の生活保護受給者に対して経済的な自立(就労)だけでなく、日常生活上の課題解決や社会とのつながりを回復するための支援の重要性を再認識することとなった。

他に、『生活困窮者自立支援事業』についても説明が行われた。

7月12日 更別村

【研修事項】更別村スーパービレッジ構想について

《村の概要》

北海道、十勝地方の南部に位置し総面積176平方km、人口は3170名、世帯数1360戸。総面積のうち、耕地面積が約70%で基幹産業は農業。農家戸数は220戸・1戸当りの経営耕地面積は約50ヘクタールと日本随一の大型農業の村。

平成9年に旧矢本町と友好姉妹町村盟約を締結。その後、平成17年東松島市の誕生で改めて友好姉妹都市盟約を締結、現在も「こども交流事業」を継続している。

●更別村企画政策課スーパービレッジ推進室の担当者より「スーパービレッジ構想」について研修を受け、その後現地に赴き様々な説明を受ける。

●「更別スーパービレッジ構想」は令和4年、国のスーパーシティ型国家戦略特区に応募するも非選定に。人口減少に伴って生じる地域課題を最先端技術によって解決し、豊かな暮らしを実現する計画を実行。その手法として民間の人材を積極的に活用して取り組んでいる。

基幹産業の農業でも高齢化、労働力不足によりオペレーターが足りなくなり、その代替えとしてスマート農業の実践に取り組み、「無人走行ロボットトラクター」やAI農機の利用、「ドローン」による農薬散布・生育判定などに活用している現状とする。

一方で、サービス業などでは人材不足で長時間労働が拡大する傾向にあり、それらへの対応策として村内移動を「自動運転車両による送迎サービス」の実証実験も行っている。また、健康管理では「ウェアラブルウォッチ（腕時計型端末）」による健康管理等も事業化している。一方で、日常的に村民に身近に寄り添う『コミュニティナース』を配置し、自然な形で健康づくりを応援する構想も進めている。



【スーパービレッジの担当者より説明聴取】



【実証実験の無人運転車両】



【無人トラクターによるカルチ作業】



【ドローンを操縦するオペレーター】

[考 察]

更別村は様々な分野において、地域社会の課題をデジタル化の活用によって、より豊かな暮らしの未来社会を実現していく最先端の自治体として大いに参考とすべきと感じた。

7月13日 恵庭市

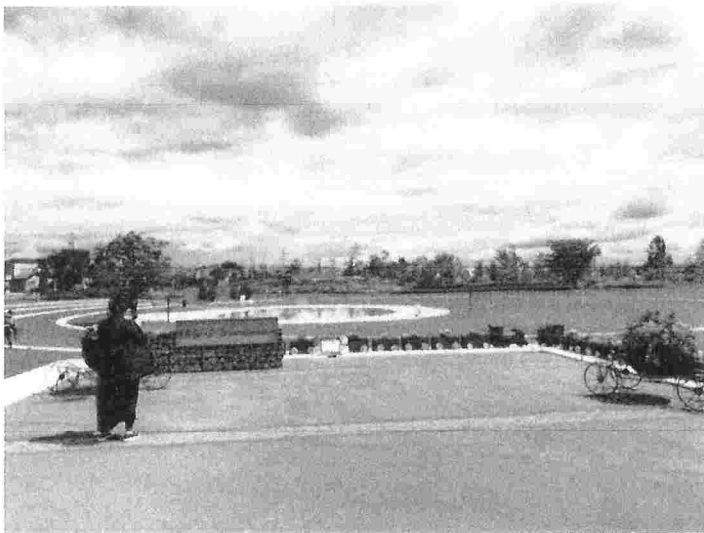
【視察事項】道と川の駅「花ロードえにわ」、花の拠点「はなふる」

《市の概要》

恵庭市は札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置し面積294.65平方km、人口は70,062名、世帯数34,321戸で市民主導による花のまちづくりが盛んで「ガーデニングのまち」として全国に知られている。

●花のまち恵庭市に令和2年11月新たにオープンした花の拠点「はなふる」は 1. 異なったコンセプトによる7つのガーデンで構成されたガーデンエリア、 2. 年間約100万人が来場する道と川の駅「花ロードえにわ」(令和2年リニューアルオープン)、 3. 農畜産物直売所「かのな」、 4. 子供を屋内外で遊ばせることのできる「えにわファミリーガーデンりりあ」、 5. 無料シャワールーム、コインランドリー、キッチンを完備する車中泊専用の施設「RVパーク花ロードえにわ」(一泊2500円電源500円)、 6. 恵庭観光案内所、 7. 暮らしを恵む庭集会施設、 8. スターバックスコーヒーはなふる恵庭店、 9. 恵庭おむすびあびす 10. フェアフィールド・バイ・マリオット・北海道えにわ(ホテル)からなる総面積6.1haの恵庭市の新しいシンボルとされている。昨年夏の第39回全国都市緑化フェアのメイン会場となった。

【ガーデンエリア遠景】





【暑さのためか屋外の人少なめ】

[考 察]

ガーデニングのまち、花のまちを標榜する恵庭市の施設とあってガーデンエリアの美しさと、様々な関連施設を集積し花の拠点とした大胆な取り組みに感心した。本市の「令和の果樹の花里づくり」の取り組みの参考にすべきではなかろうか。